猫と吸血鬼

走る地軸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫と吸血鬼

【Ｎコード】

Ｎ７１９９Ｅ

【作者名】

走る地軸

【あらすじ】

現代社会における、人の言葉を話す事が出きる猫の物語。吸血鬼である主人とのんびり暮らしたいだけの彼に襲い掛かる受難。

出会い

今日も暑い・・・・。

「熱いぞ、主人・・・・。」

「そうだな、夜だと言うのに、蒸す事、蒸す事。」

主人は黒いマントをはためかせ屋根の上に立って答えた。

「部屋に入ろうぜ、そしてクラーでもつけてゆっくりしようぜ」

「いや、まだ月明かりを楽しみたいんだよ、夜の空気も感じたいしね。それにクラーじゃなくてクーラーだから。」

主人はゆったりと答える。

「主人は、だいたいのんびりしすぎだ。それに、大体こんな所人間共に見られた困るのはご主人だろう?」

「ボクは別に困らないし、それに君は人目を気にする事ないじゃないか、猫なんだから。」

そう、主人んが言うとおり、俺は猫なんだが、もっと言うなら言うなら黒猫なんだが・・・。

「そう言う主人は、困るのだろう?吸血鬼なんだからな・・・。」

「やめてよ、呼ぶならヴァンパイアって呼んでくれないかな？吸血鬼って鬼ってついてて怖いじゃないか。」

笑みを浮かべる主人、笑顔の両端から牙が見える。

「人間からしてみれば、人間の血を吸う主人は鬼みたいなもんだ。」

「酷いなぁ・・・。事実だけに言い返せないけどね」

「・・・・・・・・・。」

「・・・・・・・・・。」

暫しの沈黙、生温い嫌な風が自分の黒い毛に絡み付いてくる。

「ん・・・・。」

視線を感じ声を出す、そして視線の糸をたどれば・・・。

「おい、見られてるぞ・・・。」

女。随分と若い人間の雌がそこに居た。距離にして直線で３００ｍ程度か、声は聞かれていないだろうが・・・・。

「ああ、そうだね。そろそろ部屋に帰ろう。」

「ほっといて大丈夫なのか？」

「普通の人間も屋根に上る事もあるだろう？」

「普通の人間はそんな格好はしていない。」

漆黒のマントを翻す主人。そう、あろう事か、主人は吸血にの正装、黒マントにタキシードを身に纏っていた。

主人の肩の上に昇り、耳元で囁く。

「どうなっても、知らんからな。」

「この鉄の塊が空を飛ぶ時代、ヴァンパイアを信じる者などいないさ。」

主人は膝を曲げ、屋根から飛ぶ。

俺たちを見ていた女には、消えたようにしかみえないだおう。

見間違えだと思ってくれれば良いが・・・。

出会い（後書き）

勃発的に書いてみた物語。
ボツボツ書いてみたいと思います。
喋る猫が書きたかったんだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7199e/

猫と吸血鬼

2010年10月21日21時45分発行